

## 清川村立緑小学校

研究テーマ：「知りたい！考えたい！伝えたい！」 ―ICTを活用した緑小教育―（全領域）

目指す児童像「ICTを活用し、協働して学び合う子」

### 1、実践の目的

小学校におけるプログラミング教育が必修化されるなど、今後の学習活動においてICTを積極的に活用することが求められている。令和元年度、本村では全児童・生徒及び教員にタブレット端末機を整備し、ICT教育に必要な環境の整備と学習活動の充実が図られた。引き続き、教育環境の整備を図るとともに、子どもたちが健やかに成長し、未来社会を切り拓くための資質・能力の一層確実な育成と、これからの社会を生き抜いていくための「生きる力」を育む教育活動をさらに推進するため研究を推進してきた。

その中、今年度も引き続き「ICTを活用した授業づくり」を中心に研究を進めてきたが、今年度はその中でも「伝える力」の育成・醸成に向けた指導の工夫・授業改善に注力し、ICT活用方法の新たなアプローチに挑戦してきた。取組に関しては相模女子大学小学部校長の川原田康文先生を講師にお招きし、伝える（表現する）ために必要な知識やスキルのボトムアップについてご指導いただきながら、取り組んできた。

### 2、実践の内容

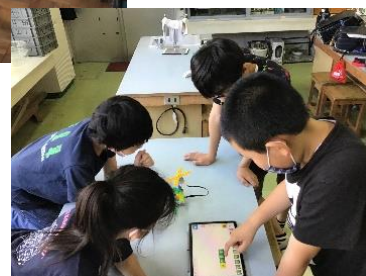
#### （1）校内研究の体制

本校では今年度もICTを活用した授業づくりを「伝える力」の育成・醸成に向けた指導の工夫とし、授業改善に注力し研究を進めてきた。各学年の公開授業を行い、相模女子大学小学部校長の川原田康文先生を講師にお招きし、毎回ご指導をいただいていた。

#### （2）研究授業・研究協議の様子

低学年では、タブレットで写真を撮ったり、見つけたことをもとに自分の思いを伝える経験を積ませている。中・高学年では自分の立場を明確にするために考えをまとめ、グループで話し合うときには、考えを広げたり深めたりするためのツールとしてタブレットを使用すると伝える意欲が高まる姿がみられた。

このことから、ツールとして、協働学習アプリをはじめとした様々なアプリを使用することでより伝えたい気持ちが高まるよう、活用している。協議会では「児童は文房具のようにICTを使うことができる。」「操作をしながらの話合いは難しい。」という意見もでた。川原田先生からは、「機械はあくまでツールなので学びは変わらない。授業ではどこでICTを使うのか。ICTで何がどう変わるのかを考え、メリット、デメリットの検討をしていく必要がある。そして「わくわく」を伝えていけるような学習づくりをしたい。」というアドバイスをいただいた。



### 3、実践の成果

本校ではこのテーマでの取り組みは3年目を迎えた。今年度はその中で特に、「伝える」「表現する」ということにフォーカスして研究を進めてきた。

低学年では、身の回りのできごとに興味をもち、考えたことを表現する。中学年では、課題を自分のこととしてとらえ、相手意識をもって考えを伝え合う。高学年では、様々な意見を自分の中で考え合わせ、再構築した考えを伝え合う。ということコンセプトに取り組んだ。低学年では課題への当事者意識をどのようにもたせるか、中学年では話し合いの中での互いの意見をどう検討しまとめていくか、高学年ではさらに出された情報の取捨選択、意見の比較、関連付け、焦点化しながらどう解決に繋げていくか、という部分にICTの協働学習アプリやシンキングツールを活用してきた。児童は扱いにも相当慣れてきていて、的確に活用して必須文房具になった。また有用な活用方法も見つけることができ、教科指導の改善にも繋げることができた。研究授業後の協議会でも協働学習アプリを利用して協議を行うことが常になった。

### 4、今後の展開

今年度講師をお願いした川原田先生からは、「子どものためのシステムはできた。次はアップデートが重要だ。またAI時代を生きる子どもたちに必要な能力とは疑問をもちそれを探究していく力である。人間は言葉が示す意味やイメージの中から、どれが重要かを直感的に理解し、それらをつなぎ合わせるができる。そして人間が疑問をもつことは学ぶことに繋がるが、AIは疑問をもたない。人間にしかない人間性が重要である。」というお話をいただいた。

本校の児童は小規模のコミュニティーで育っているため、社会性が育ちにくく、何事も人を頼ってしまい、困難があったときに

自分の力で立ち直る力が乏しい。そこで現在の児童の実態から、今後の予測が困難な事象に対して自ら考え、判断し、行動できる人間に育てるためにも、子ども自らが考え、選択し、関わり、説明する等ができるように、来年度はテーマを変更し、取り組んでいくことを全職員で確認した。いままでの研究成果は大事にしながらも、今後は社会性を磨く方向にシフトし、新年度はスタートをしようとしているところである。

また、川原田先生からは「才能とは情熱を持続させること」という夢のあるお言葉もいただいた。その理念も胸に秘めながら新たなステージに向かいたい。

